

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4473000349		
法人名	社会福祉法人 直心会		
事業所名	望箭荘グループホーム山国		
所在地	大分県中津市山国町守実57-1		
自己評価作成日	平成23年 1月 6日	評価結果市町村受理日	平成23年3月31日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成23年2月8日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

産地の米や野菜を使って3食、暖かい食事を提供している。 緑豊かな自然環境の中で地域の行事等楽しんでいる。 体調の変化、身体機能の低下に合わせ家族や利用者の意向に沿った支援を行っている。 ドライブ(花見・紅葉見物・高塚参拝・かかし見学・蛸鑑賞等)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・地域の食材を、利用者と一緒に行き、旬のものを美味しく、食べやすく工夫した調理で、家族のように楽しく食べる支援をしている。 ・災害対策のため地域や市役所と話し合い、安全な避難場所を確保して、消防団や地域住民と連携して、避難できる体制ができています。 ・職員は、利用者本意のケアを基本として、一人ひとりの思いを大切にされた支援を行っており、ケアプランにも反映している。また、ケアの質を高めたいと意欲的である。 ・地域の人々が立ち寄りやすい位置に立地しており、利用者も自由に地域のお地藏様にお参りに出かけるなどしている。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 該当するものに印		項目		取り組みの成果 該当する項目に印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の		63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と	
		2. 利用者の2/3くらい				2. 家族の2/3くらい	
		3. 利用者の1/3くらい				3. 家族の1/3くらい	
		4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない	
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある		64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように	
		2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度	
		3. たまにある				3. たまに	
		4. ほとんどない				4. ほとんどない	
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が		65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない	
		4. ほとんどいない				4. 全くない	
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が		66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が		67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどいない	
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が		68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が	
		2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが	
		3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが	
		4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が					
		2. 利用者の2/3くらいが					
		3. 利用者の1/3くらいが					
		4. ほとんどいない					

自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の朝礼時に確認したり、玄関やスタッフルームに掲げいつでも見れるように日々の支援で実践している。	職員で話し合い、地域性や現状に即した、職員の思いのこもった理念を作っている。ケアの基礎を理念として、常に振り返って利用者の持っている力を発揮できるよう支援している。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の祭りの準備、おこぼ様に参加し地域との交流を図っている。 JA直販所へ食材の買い物に利用者と一緒に行き近隣の方との交流もある。	地元の昔馴染みの行事に参加したり、おこぼ様の食事交流にも招かれ出かけている。地域の販売所で食材を買うことで馴染みになり、神社の清掃を行うなど、地域に積極的に働き掛けることで、受け入れてもらえる努力をしている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進委員会を通じて地域の方々に認知症への理解を深めてもらえるよう取り組んでいる。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回の会議を通して行事や運営に関する報告や他に意見交換の時間を設け、要望や意見を伺い話し合い、より良いサービスに努めている。	定期的開催し、家族会の意見や地域代表者からの情報、災害時の地域での取り組み、ケアの実態と対応方法など、テーマに沿って話し合い、サービスの質を高める会議となっている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	支所がすぐ近くにあるので何かと便利であると共に市の職員が運営推進委員であり、必要に応じて相談を行っている。	市役所支所が近くにあり、介護保険制度や福祉制度の相談、健康面での情報や質問と気軽にできる関係である。市役所もホームページにグループホームのできごとを載せ、遠隔地でも情報が共有できるようにしている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を行い職員全体で理解を深め見守りに努め、拘束のない支援に努めている。	計画的な学習を行い、身体拘束をしない支援をしている。契約書・重要事項説明書に身体拘束をしないことを書き込んでいる。外出をしようとする方に対して鍵をかけるのではなく、原因を把握し対応している。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修やミーティング等で理解を深められるよう取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	二ヶ月に一回の運営推進委員会議上でも成年後見年制度について話し合いをして支援できるように取り組んでいる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に契約書や重要事項に理解納得していただけるように説明を心がけている。状態変化時には家族と相談し方針を検討している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	プラン見直し時、面会時などに確認し、意見・要望等について話し合い反映させている。	毎月「おげんき通信」で利用者の近況報告・健康状態・生活状況など分りやすく報告し、意見要望を求めている。家族会も定期的に関われ、出された意見は、ケアに活かしている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務に対する改善提案や様々な意見を聞き、運営に反映させるように努めている。	書類の簡素化や勤務体制など業務に対しての意見を出し合っている。職員は、常にメモ帳を持ち、気づきをすぐに書きとめ、ケアに活かせるよう努力している。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働くことが出来るように、随時意見を取り入れ状況把握し、労働時間等や環境整備に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り、必要な研修に参加し、職員の資質向上に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県内のグループホーム間での情報交換や研修に参加、又施設の見学。職場内でその情報を共有しサービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族の要望等を聞き入れ、様々な問題に対応出来るよう努め納得された上で利用していただけるように取り組んでいる。		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学や面談時に現状サービス、利用状況などをうかがい、家族の意向を理解し相談や助言を行なうように努めている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時に状況を判断し、助言や他の機関等のサービスの紹介などを含めた対応するように心がけている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理を作ったり、特技や趣味が発揮できるような活動支援に努めている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族から利用者の過去の生活状況や、好きなこと嫌いなことなどの情報を得るように努め家族の意向に応えながら利用者の支援に努めている。又、面会等できるだけして頂けるようお願いしている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外泊、外出は自由にして頂いている。 面会時には共に過ごせる場を設け、大切な時間を楽しまれるよう努めている。	家族と共に積極的に外泊をしたり、職員と一緒に自宅や馴染みの場所へドライブをしている。ホームの前には、社会福祉協議会やバス停があり、人が集まるため、バス待ちで友人知人がやって来て会話などを楽しんでいる。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	手伝い等して頂いたり、カラオケやソファ、和室での談話などそれぞれの場で利用者同士の関係がうまくいくよう心掛け、見守り声かけなどの支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所に異動された方にも面会に行ったり、その後の家族の方からの相談に応じたり継続的な支援になるように努めている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの希望を聞き入れ、困難な場合は話し合って納得して頂けるよう努めている。	趣味や好きなことを把握し、言葉で表せない方に対しても日常の状況から、希望や要望を読み取っている。その人らしく生活できるプランづくりに反映させている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族の意向を聴いて、今までの生活が継続できるような支援を行なうよう努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者の生活リズムを理解すると共に、食事の下準備、洗濯物干し、洗濯物たたみなど身体状況に応じて参加して頂いている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとりの課題やケアの方法など職員で話し合い意見を出し、家族の意見も取り入れられている。	毎月のモニタリングをもとに、本人や家族と話し合い、担当者会議で職員が意見を出し合い、作成している。楽しいことや精神的に安定できる支援を具体的に取り入れている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別記録に記載し、申し送り時に状況の報告を行い情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じた通院や送迎等、必要な支援に柔軟に対応し個々の満足度を高めるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議の委員に市職員、地域包括支援センター職員、民生委員の参加があり情報交換を行なっている。消防署の方が参加の非難消火通報訓練の助言、指導を得ている。災害時には地域の協力を得ている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や本人が希望する医療機関へ受診できるように支援している。受診や必要時の往診等の協力医院がある。	以前よりかかっていた医療機関を継続して利用している。受診時は、職員が付き添って、往診も可能である。家族と病状や体制の話し合いも随時行っている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期的受診で利用者の状況を把握している。看護師に相談し受診につなげたり、同法人の看護師より助言を得ている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族と一緒に医師と話し合い、病院とも連絡を取り合いながら早期退院に向けて調整している。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に書面にての意向を聞き、実際に重症化した場合は家族と充分話し合い、同法人施設や医療機関と連携を図るようにしている。	契約時に重度化した場合の話し合いを行い、状況に応じて法人内の適したサービスが選べるようになっている。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時連絡網、マニュアルを把握しており救急法の勉強会を実施し体得するようにしている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	二ヶ月に一回の避難訓練と、年一回の消防署との合同訓練を行なっている。地域消防団の協力依頼も頂いている。水害時の非難場所に利用者の空き自宅との契約をしている。	地域消防団へ協力依頼に周り、団員がホーム見学に來たりしている。災害発生時、緊急連絡網として、地域に電話が回り、水害時の非難場所や配車計画など具体的に準備がされている。また離れた避難場所への避難訓練も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者に合わせ、さりげない言葉かけや支援を心がけ、職員同士がお互いに注意しあうようにしている。プライバシー保護についての勉強会を行っている。	一人ひとりのプライドを尊重し、優しい言葉かけや見守りをしている。トイレの声かけも周囲に聞こえないように囁き、プライバシーに対しても勉強会を持ち、傷つけない配慮をしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の意思表示を大切にしたケアに心がけている。困難な場合は頷きによる返答や表情を読み取るようにし、本人の意思が尊重できるように支援している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な日課はあるが体調やその日、その時の気持ちを尊重し個別に柔軟な対応をしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や行事、母の日、敬老会、誕生日などには一緒に洋服を選んだりお化粧やおしゃれを楽しめるよう支援している。又、地域の美容院でカット、パーマ、毛染め等の利用の支援も行っている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3食とも調理して提供しているので、利用者の好みに変更したり体調に合わせて調理方法を変更するなど工夫しながら調理や下準備の手伝いをして頂いている。	地域の新鮮な食材を使った食事づくりや、食べやすく美味しい調理の工夫をしている。買物に利用者も一緒に行き、できることは共にやっている。職員とテーブルを囲み家族のように楽しく話しながら食事をしている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分の摂取量を毎日記録し、摂取量が少ない場合は申し送りで伝達し必要な支援を行なっている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後のうがい、歯磨き、義歯の手入れを行ない毎夜、義歯のポリデント洗浄をし口腔の清潔保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを記録し、利用者の行動を察知しトイレ誘導を行い、出来るだけトイレで排泄していただくよう支援している。又、時間を見計らって誘導の声かけを行なっている。	排泄パターンを把握して時間を見計らい声かけをし、トイレ誘導をしている。トイレで自力排泄できることを大切にしており、オムツの使用を抑える支援をしている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動、水分摂取、おやつなどの工夫に努めている。又、医師より薬の処方を受けている利用者もあり、様子観察をし内服支援を行なっている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週三回の入浴を基本としているが、本人の希望や体調、気分により入浴日を変更したり増やしたりして、入浴を楽しめるように柔軟な支援を行なっている。	基本的には週3回であるが、希望により、好きな時に入浴可能である。入浴の順番が決まっています、各人の希望を反映している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	布団を干したり昼食後の休養、運動、レク、余暇活動を行なうことにより安眠の支援に取り組んでいる。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬を変更した場合にその旨を記録し職員間で情報を共有する。 本人に変化があった場合は医療機関と連絡を取り指示を仰いでいる。		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レクリエーションに参加したり、カラオケやCDに合わせ唄ったり手伝い等の好きなことをして楽しく過ごせるよう支援している。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人の希望する美容院での毛染め、カット、パーマ利用の支援、買い物外出やドライブ、花見、紅葉見学、高塚地蔵尊参拝、かしわワールド見学などに出掛けている。	近くのお地蔵さん参りや散歩に日常的に出かけている。また、スーパー・農協・農産物販売所など買物に出かけている。季節ごとの観光や地域の行事にも積極的に外に出るよう支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物外出に職員が付き添って、買いたい物を購入し支払いの見守りを行なっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望や用事がある時、電話をしたり年賀などで家族や知人との交流を図っている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールにソファを置き、和室にはコタツがある。日当たりの良い場所に畳を敷いて日向ぼっこをするなどくつろげるように配慮している。	黒電話や昔を思わせる家具・懐かしい小物がさり気なく置かれ、落ち着ける配慮が見られる。陽だまりでお日様を浴びる空間や和室、調理の音や香りが感じられる間取り、2階から外に歩いて出られるスロープなど、利用者にとっての工夫をしている。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのソファで談話したりテレビを見たり、日当たりのよい畳の上で日向ぼっこをしたり、好みの場所で過ごせるようにしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	時計、カレンダー、テレビ、ラジオ、馴染みのある私物、家具、家族の写真などを置きやすさの場所になるような居室づくりに努めている。	大切にしている小物や写真、時計・カレンダーなど落ち着いて過せるよう個性のある居室としている。洋服の好きな人は見て選べるような配慮もしている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下、トイレ、エレベーター、浴室脱衣所などに手すりを設置したり、室内の段差をなくし安全や自立に配慮している。		